

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	きらり鎌ヶ谷市民会館の管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	
政策	生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	芸術・文化の振興	担当課室長	小松崎佳之			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	市民会館の適切な管理運営を行う。指定管理者制度の導入により、民間業者のノウハウを活用した更なるサービス向上を図るため、指定管理者への適切な指導を行い、きらりホール主催事業の内容やPR方法の見直しを行う。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	所管課及び業務評価委員によるモニタリングを実施し、施設の管理運営状況及びサービス向上の視点から事業を検証していく。
②①に基づく取組み結果	指定管理者と連絡を密に取りながら、月1回の月次モニタリングを実施し、施設の管理運営状況の把握、情報共有を行うとともに、必要に応じて適切な指導を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民(施設利用者)	意図(対象をどうするのか)	市民の芸術文化活動のサポートをする。
②事務事業の概要	指定管理者によるきらりホールの管理運営及びきらり鎌ヶ谷市民会館の維持管理を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	きらりホールは、有料事業も行える本格的なホールであることから、発表の場としての市民のニーズは高い。また、指定管理者制度の導入に伴い、民間業者のノウハウを活用した更なるサービス向上が見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、一部事業を延期及び中止とした。また、利用制限や感染症への懸念から、きらりホールへの来場者数及び貸館件数が減少したが、感染症対策を取りながら、適切な管理・運営が行われた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	ホール来場者数	58,349	46,109	7,968	人	業務取得
	ii	主催事業来場者数	4,545	3,133	2,676	人	業務取得
	iii	貸館件数	189	164	84	件	業務取得
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算		
事業費(千円)	118,442	207,494	金額(千円)	内容		195,950	
	国支出金(千円)		9,276	光熱水費			
	県支出金(千円)		93,698	きらりホール及び中央公民館指定管理料			
	市債その他(千円)		12,104	清掃委託			
	一般財源(千円)	118,442	207,494	82,487	市民会館賃借料	195,950	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市民の芸術文化活動の推進のため、指定管理者による良質な芸術文化の鑑賞機会や、芸術文化活動への市民参加機会を、引き続き提供していく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	芸術文化の振興を図るため、施設の管理運営状況及びサービス向上について、引き続き指定管理者の事業を検証していく必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初	0	R1からの繰越		
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正		現年分		
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		令和3年度への繰越額(単位:千円)				

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	文化財保護に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	
政策	生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	芸術・文化の振興	担当課室長	小松崎佳之			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

① 前回の評価で掲げた内容	市指定文化財、登録有形文化財、その他市内の保存すべき文化財について、所有者と連携しながら適切な管理を行う。埋蔵文化財に関しては、窓口対応から発掘調査の実施まで、迅速かつ遺漏のないように対応していく。	③ 令和3年度に取組む改革・改善内容	市内の指定、登録などの各文化財について、所有者と連携しながら適切な管理を行う。埋蔵文化財については、調査の必要な案件は迅速かつ適切に対応する。さらに文化財保存活用地域計画の令和4年度策定を目指し準備する。
② ①に基づく取組み結果	市内の野馬土手や市指定文化財について、状況の確認、必要に応じて清掃活動を実施した。また、開発に際し、現地保存ができない埋蔵文化財包蔵地の2件について、本調査を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

① 目的	対象	市内遺跡、指定文化財等	意図(対象をどうするのか)	現状保存を目指す。不可能な場合は発掘調査等による記録保存を行う。
② 事務事業の概要	文化財の指定・指定文化財の管理・埋蔵文化財発掘調査に係わる業務を行う。			
③ 環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	首都圏近郊に位置する本市の地理的環境により、各種開発の波が市内にも及び、埋蔵文化財(遺跡)の保存策を講じる必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

① 令和2年度の事業の成果	市指定文化財30点中、市所有以外の26件の管理・活動に報償を支払った。埋蔵文化財確認のあった45件の事業に対し、埋蔵文化財包蔵地に該当する5件の確認調査、2件の本調査を行った。						
② 成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	発掘調査件数	8	6	7	件	業務取得
	ii	発掘調査面積	920	388	516	m ²	業務取得
iii	埋蔵文化財窓口確認数	796	802	752	件	業務取得	
③ 事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算		
事業費(千円)	6,762	5,318	金額(千円)	内容	10,566		
国支出金(千円)	1,806	1,126	2,487	報酬	1,183		
県支出金(千円)	451	225	320	指定文化財報償費	236		
市債その他(千円)			227	文化財看板作成			
一般財源(千円)	4,505	3,967			9,147		

IV 評価・検討

① 課題(目的に対する現状など)	埋蔵文化財保護事業は現状保存を目指しているが、開発を伴うため発掘調査等による記録保存を行うことが多い。文化財を未来に伝えていくための保護業務が必要である。					
② 評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③ 上記評価の理由	埋蔵文化財保護事業は行政の責務であり、各種開発が本市でも行われていることから、継続して実施する必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

① 令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
② 計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③ 達成状況		補正			現年分	
④ 未完了・非着手の理由		流用・充当				
		令和3年度への繰越額(単位:千円)				

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	文化振興に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	
政策	生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	芸術・文化の振興	担当課室長	小松崎 佳之			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	芸術文化事業を引き続き実施し、市民に芸術文化活動への参加機会や芸術文化にふれる機会を提供する。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	引き続き、新型コロナウイルスの状況を見ながら、芸術文化事業を実施し、市民に芸術文化活動への参加機会や芸術文化にふれる機会を提供する。
②①に基づく取組み結果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各種事業を中止としたが、SNSで古典芸能等についての情報発信を行い、多世代が芸術文化にふれる機会を提供した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内に在住・在勤・在学する人	意図(対象をどうするのか)	芸術文化に興味・関心を持ち、豊かな情操を身につけ自らも活動する。
②事務事業の概要	芸術文化事業(市民文化祭、美術展覧会、芸術鑑賞教室等)を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	行政が提供する事業を鑑賞するという受身的な意識から「行政とともに事業を作り、運営する」という協働型の事業展開を望む市民(団体)の増加が予想される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	市民文化祭、芸術鑑賞教室(能楽・歌舞伎・文楽・美術)、市内団体との共催による芸術祭及び美術展覧会は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	芸術鑑賞教室応募者数	466	373	0	人	業務取得
	ii	市芸術文化事業参加・発表者数	1,394	1,021	0	人	業務取得
iii	市芸術文化事業来場者数	9,464	7,511	0	人	業務取得	
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	1,965	1,667	金額(千円)	内容		2,324	
国支出金(千円)			1,380	パートタイム会計年度任用職員報酬			
県支出金(千円)			196	期末手当			
市債その他(千円)			91	芸術文化関係団体等活動補助金			
一般財源(千円)	1,965	1,667				2,324	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	若い世代をはじめとした多くの市民が参加できる機会や、来場するきっかけを作っていくことが課題となる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	芸術文化活動への参加機会及び鑑賞機会の提供は、地域に根ざした芸術文化活動活性化や、新たな市民文化の創造を図るために必要であるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由	令和3年度への繰越額(単位:千円)					

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	国史跡下総小金中野牧跡保存整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	○
政策	生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	芸術・文化の振興	担当課室長	小松崎佳之			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	引き続き国史跡を定期的に巡視し、適正な管理を行う。周知普及イベントにおける参加者の増加を図ると共に、幅広い年代に史跡へ興味を持ってもらえるようイベントの内容を工夫する。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	引き続き国史跡を定期的に巡視し、適正な管理を行う。イベントの開催方法と内容を工夫し、幅広い年代への更なる周知に努める。
②①に基づく取組み結果	史跡内の清掃管理、強風による倒木の伐採を行い、適正管理に努めた。また、イベント制限がある中、オンライン配信などによる周知に努めた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	国史跡下総小金中野牧跡 捕込・野馬土手	意図(対象をどうするのか)	市民に親しまれる史跡をめざし、周知及び清掃。
②事務事業の概要	国史跡下総小金中野牧跡の維持管理、周知普及および保存管理を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	史跡を保護するために国史跡として公有化を進め、指定後は周知普及に努めた結果、市の地域資源として市民に浸透してきたことにより、事業実施時などに整備を望む声が寄せられている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	史跡を定期的に巡視し、清掃管理、倒木の伐採を行い、史跡の適正管理に努めた。また、周知イベントが中止になる中で、オンライン配信の手法を用いて、広く周知に努めた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	国史跡取得面積	6,322	6,322	6,322	m ²	業務取得
	ii	周知普及事業参加者	3,421	5,381	0	人	業務取得
	iii	オンライン配信閲覧者			1,516	回	業務取得
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	5,728	2,128	金額(千円)	内容		3,945	
国支出金(千円)			915	清掃管理委託			
県支出金(千円)			1,213	実行委員会負担金			
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	5,728	2,128				3,945	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	史跡の更なる周知を目指して、事業展開をしているが、捕込を適切に保存していくために、財政状況を見極めた上で、史跡整備の検討が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	史跡地を保存活用し、周知普及事業の実施や、清掃管理を行い、史跡に対する市民意識の醸成を図ることが必要となるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	史跡清掃管理・周知普及活用事業	令和2年度事業費の状況(単位:千円)			
		計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績	史跡清掃管理・周知普及活用事業を実施した	0	当初	0	R1からの繰越
			R1⇒R2繰越		現年分
③達成状況	完了		補正		
④未完了・非着手の理由			流用・充当		
			令和3年度への繰越額(単位:千円)		

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	埋蔵文化財緊急調査事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	○
政策	生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	芸術・文化の振興	担当課室長	小松崎佳之			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	分類・接合作業の進んだ出土遺物の復元作業を実施し、状態の良い資料の図化作業、写真撮影、図版作成、原稿執筆を行い、発掘調査報告書を刊行する。	③令和3年度に取組む改革・改善内容
②①に基づく取組み結果	事業が進捗し、出土品の復元、図化の委託、図版作成、写真撮影、原稿執筆、報告書編集作業を実施し、発掘調査報告書を刊行したため、事業は終了した。	

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	一本松遺跡	意図(対象をどうするのか)	調査成果をまとめて、発掘調査報告書を刊行する。
②事務事業の概要	平成28年度に本調査を実施した一本松遺跡の出土資料を整理、分析し、発掘調査報告書を刊行する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	現地説明会を実施したところ、100名を超える見学者があったが、後から情報を知った市民から、見学要望が相次いだため、再度説明会を開催したところ、100名近い見学者があり、地元の遺跡や歴史に対しての関心は高い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	分類・接合が終了した遺物の復元作業、出土資料の図化作業、写真撮影等を行い、報告書作成のための図版、原稿作成を行った。図化作業の一部(土器32点、石器45点)は外部に委託し、作業の効率化を図った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	従事作業員数	933	477	223	人	業務取得
	ii	委託遺物数量		82	87	点	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算		
事業費(千円)	6,762	4,227	金額(千円)	内容	0		
国支出金(千円)	1,806	2,109	1,342	報酬			
県支出金(千円)	451	422	2,145	実測委託			
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	4,505	1,696					

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	分類・接合が終了した遺物の復元作業、出土資料の図化作業、写真撮影作業、報告書作成のための図版、原稿作成を行い、遺跡の情報を市民に還元できるように発掘調査報告書を刊行することが必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	発掘調査報告書を刊行することができたので、事業は終了となった。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	発掘調査報告書を刊行する。	令和2年度事業費の状況(単位:千円)			
		計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績	発掘調査報告書を刊行した。	0	当初	0	R1からの繰越
③達成状況	完了		R1⇒R2繰越		現年分
④未完了・非着手の理由			補正		
		令和3年度への繰越額(単位:千円)			

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	郷土資料館の管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	6	
政策	生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	芸術・文化の振興	担当課室長	三石宏			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	ふるさと意識の醸成をはかるために、資料の収集・整理の推進と、展示や講座等の事業に、まず興味を持ってもらうための工夫が必要のため。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	資料の収集・整理・保管の環境を整え、展示、事業等で活用し、地域の歴史に興味を持つ市民の更なる増加につなげる。
②①に基づく取組み結果	収集した郷土資料(歴史資料・民俗資料)の整理(データ化・リスト化)を進め、ミニ展示、収蔵資料展示、ホームページへの掲載への活用、レファレンスを行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	全ての市民	意図(対象をどうするのか)	先人の足跡をたどり、その生活を知ること、ふるさと意識の醸成を図る。
②事務事業の概要	郷土の歴史・民俗等に係る資料を収集・調査・研究・整理し、資料展示及び各種講座、教室等を実施するもの。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	6月から再開したが、コロナ対応のため、内容や方法によって実施制限が生じるため、定員を半分に絞った講座の実施となったが、多数の応募があったことから、関心の高さは保たれているが、参加者層に合った実施方法の検討が必要である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	(1)郷土資料の調査・収集 (2)常設展示 (3)新発見資料展・ミニ展示 (4)講座(セミナー、講演会) (5)講師派遣 (6)レファレンス						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	常設展示来館者数	4,209	3,497	1,407	人	業務取得
	ii	展示事業実施回数	3	2	2	回	業務取得
	iii	教育・普及事業実施回数	47	43	7	回	業務取得
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	12,534	12,938	金額(千円)			内容	
	国支出金(千円)			4,357	非常勤職員賃金		
	県支出金(千円)			1,181	空調機改修工事		
	市債その他(千円)			1,298	自動ドア化改修工事		
	一般財源(千円)	12,534	12,938				15,877

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	多くの方々に市の歴史に興味を持ってもらうため、収集した資料を展示や講座等で活用できるように、整理作業を進める必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	2普通		
③上記評価の理由	資料の収集・整理の推進、展示や講座等により市の歴史に興味を持ってもらい、ふるさと意識の醸成を図る必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		令和3年度への繰越額(単位:千円)				